

令和3年度地域生活支援拠点事業実績報告書

施設名 中野学園

登録者数	年度末	年度登録抹消		登録抹消者の登録抹消理由				
	23人	0人						
	新規登録者数	前年度末						
	0人	23人						
登録者数の内訳								
障害の程度	重 度	中 度		軽 度				
身体障害	人	人		人				
障害の程度	重 度	中 度		軽 度				
知的障害	7人	7人		9人				
障害の程度	重 度	中 度		軽 度				
精神障害	人	人		人				
難病								人
発達障害								人
高次脳機能障害								人
重症心身障害								人
年齢階層別	0~12歳	13~18歳	19~30歳	31~40歳	41~49歳	50~59歳	60歳以上	
	1人	4人	2人	2人	6人	6人	2人	
生活状況別	アパート・マンション等で単身で生活						6人	
	同居している家族等が高齢または長期にわたる病気						7人	
	グループホーム・生活ホームに入居						4人	
	親と在宅生活する障害児						2人	
	配偶者と在宅生活する障害者						0人	
	その他(具体的に)【例:親と同居、兄弟と同居等】 親子全員が知的障害						4人	
登録者への支援方法	方 法		支援実人員			支援延回数		
	電話		11人			230回		
	家庭訪問		9人			130回		
	職場訪問		2人			49回		
	来所		2人			41回		
	他機関訪問		6人			22回		
	その他		人			回		
コーディネーターの活動状況	区 分		具体的内容					
	各種相談支援		弁護士、会計士等の要請。医療機関との調整。福祉サービス利用					
	親離れ子離れの必要性の教化		家族以外の支援の構築。資源の説明。					
	対象者に関する緊急連絡先の調整		短期入所事業所、居宅介護事業所の確認					
	協力事業者による緊急連絡ネットワークの作成		区内事業所への協力依頼働きかけ					
	対象者の地域における支援ネットワークの構築		小児科医や居宅事業所、学校及び自治会との連携構築					
	登録者への見守り支援(訪問・電話連絡)		定期的連絡の他、適宜訪問などを行った					
その他		子育て支援						
地域資源の活用	事 例		活用できた資源(成功事例)		活用できなかった資源(失敗事例)			
	深夜の自宅火災で母親が死亡。本人一人残される。空床対応にて緊急の短期入所を行う。		自宅火災による緊急時案のため警察、行政、救急等他機関を基幹で対応		本人の空床利用中の日中活動の利用は移動手段なく利用なし			
	奇声や飛びだしなどのある小学生男児。家庭内でのケアが十分できないため緊急対応の依頼		多くの支援が求められる中、個別対応可能な単独型短期事業所での対応と		市内に児童施設がなく、子供特有の必要な支援を行えない			
	国民健康保険滞納による、預金差し押さえのため、生活困窮となる		市内のフードバンクの利用や拠点事業からの直接支援		行政窓口などの対応猶予や通知方法の変更等の要望は叶わず			
	同居家族の終末の看取りの必要があり、その間の本人の対応支援を求められた		空床が空くまでの期間通常利用する通所施設にて宿泊する		空床利用が重なり利用ができなかった。空床1床での対応の厳しさ			

緊急時の対応実績報告	対応回数	58						
	障害の程度	重 度		中 度		軽 度		
	身体障害	人		人		人		
	障害の程度	重 度		中 度		軽 度		
	知的障害	7人		7人		9人		
	障害の程度	重 度		中 度		軽 度		
	精神障害	人		人		人		
	難病	人						
	発達障害	人						
	高次脳機能障害	人						
	重症心身障害	人						
	年齢階層別	0～12歳	13～18歳	19～30歳	31～40歳	41～49歳	50～59歳	60歳以上
		1人	4人	2人	2人	6人	6人	2人
	生活状況別	アパート・マンション等で単身で生活						6人
		同居している家族等が高齢または長期にわたる病気						7人
		グループホーム・生活ホームに入居						4人
		親と在宅生活する障害児						2人
		配偶者と在宅生活する障害者						0人
		その他(具体的に)【例:親と同居、兄弟と同居等】 親と同居						4人
	発生日由	介護者の不在等による緊急連絡						1人
本人の急病等による緊急連絡						2人		
急な予定による緊急のサービス利用						人		
災害等による緊急連絡						1人		
その他(具体的に)【例:親と同居、兄弟と同居等】 家族や家庭の事情						8人		
対応方法	コーディネーターの訪問により対応						8人	
	緊急連絡網の協力事業所へ連絡し、事業所の手配を実施						1人	
	電話連絡等により、本人の安否を確認						4人	
	救急車・警察等との連携を実施し、対応						1人	
	その他(具体的に)【例:親と同居、兄弟と同居等】 空床や居宅事業等のコーディネート						13人	
研修実施報告	開催回数	新型コロナウイルス禍のため実施できず				参加者数合計		
	日時		会議名		参加者数			
	日時		会議名		参加者数			
	日時		会議名		参加者数			
各種会議参加実績報告	出席回数							
	日時	5月17日	会議名	竹内支援会議(特定相談 就B 居宅介護等出席)				
	日時	6月8日	会議名	拠点事業所連絡会議(市内拠点事業所3ヶ所)				
	日時	7月27日	会議名	自宅火災被災者支援会議(基幹 警察 行政 家族等)				
	日時	8月4日	会議名	自立支援協議会地域部会				
	日時	3月4日	会議名	高梨支援会議(本人 委託相談 基幹 拠点等)				
その他の活動・本事業の効果・コーディネーターの意見等								
<p>当該事業は今期において終了となる。開始当初より本事業においては、支援が必要となる人が緊急時に安心して過ごせる場所が確保されることへの期待が大きかった。本来のこの事業のあるべき姿は、支援を必要とする人達の緊急時対応を図り、地域全体への働きかけを継続させながら、その仕組みを創って行くことにあった。しかし、緊急時対応のイメージが極めて狭義の中で捉えられ、入所施設などの空床確保などに期待する傾向を助長してしまった印象がある。日常生活の中で多くの支援を必要とする人達の緊急時や自立生活に向けた多様で柔軟な仕組み作りに向けた今後の取組に向けてこの事業で得た様々な学びを役立てて行きたいものである。</p>								

令和3年度地域生活支援拠点事業実績報告書

施設名 若葉泉の里

登録者数	年度末	年度登録抹消		登録抹消者の登録抹消理由				
	5 人	1 人		・お母様の入院に伴いGHで短期入所をしていたが、他GHで本入所が決まったため。				
	新規登録者数	前年度末						
	2 人	4 人						
登録者数の内訳								
障害の程度	重 度	中 度		軽 度				
身体障害	3 人	人		人				
障害の程度	重 度	中 度		軽 度				
知的障害	1 人	人		人				
障害の程度	重 度	中 度		軽 度				
精神障害	人	人		人				
難病							1人	
発達障害							人	
高次脳機能障害							人	
重症心身障害							人	
年齢階層別	0~12歳	13~18歳	19~30歳	31~40歳	41~49歳	50~59歳	60歳以上	
	人	人	人	2人	3人	1人	人	
生活状況別	アパート・マンション等で単身で生活						人	
	同居している家族等が高齢または長期にわたる病気						4 人	
	グループホーム・生活ホームに入居						1 人	
	親と在宅生活する障害児						人	
	配偶者と在宅生活する障害者						人	
	その他(具体的に)【例:親と同居、兄弟と同居等】 ・現在入院中、今後千葉市内で一人暮らしを予定。病院より早急に退院して欲しいと言われている状況。						1 人	
登録者への支援方法	方 法			支援実人員		支援延回数		
	電話			1人		1回		
	家庭訪問			2人		3回		
	職場訪問			人		回		
	来所			1人		1回		
	他機関訪問			人		回		
	その他			人		回		
コーディネーターの活動状況	区 分			具体的内容				
	各種相談支援			福祉サービス利用にかかる相談				
	親離れ子離れの必要性の教化							
	対象者に関する緊急連絡先の調整			関係機関との連絡調整				
	協力事業者による緊急連絡ネットワークの作成			区内事業所及び基幹相談支援センターとの情報共有・調整等				
	対象者の地域における支援ネットワークの構築			福祉サービス(生活介護・短期入所)利用の確認、				
	登録者への見守り支援(訪問・電話連絡)			母親の緊急入院に伴い、基幹職員と訪問				
その他								
地域資源の活用	事 例			活用できた資源(成功事例)		活用でなかった資源(失敗事例)		
	夫(糖尿病)の介護にて在宅生活を送っているが、夫が入院する予定に備え、生活介護利用・短期入所を検討			施設見学を経た後、月2回生活介護を利用する事が出来た		ご家族の意向により短期入所は利用に至らず		
	母親の入院中を含め、今後の生活の場を確保する			GHにてSSを利用しながらの、本入所決定となる				

緊急時の対応実績報告	対応回数	5回						
	障害の程度	重 度		中 度		軽 度		
	身体障害		人		人		人	
	障害の程度	重 度		中 度		軽 度		
	知的障害	1人		人		人		
	障害の程度	重 度		中 度		軽 度	不明	
	精神障害	人		人		1人		
	難病							人
	発達障害	(児童)						人
	高次脳機能障害							人
	重症心身障害							人
	年齢階層別	0～12歳	13～18歳	19～30歳	31～40歳	41～49歳	50～59歳	60歳以上
		人	人	人	人	人	1人	人
	生活状況別	アパート・マンション等で単身で生活						1
同居している家族等が高齢または長期にわたる病気						1	人	
グループホーム・生活ホームに入居							人	
親と在宅生活する障害児							人	
配偶者と在宅生活する障害者							人	
その他(具体的に) 【 例:親と同居、兄弟と同居 等 】							人	
発生事由	介護者の不在等による緊急連絡							人
	本人の急病等による緊急連絡						1	人
	急な予定による緊急のサービス利用						1	人
	災害等による緊急連絡							人
	その他(具体的に) 【 例:親と同居、兄弟と同居 等 】 ※本人の不安や、家族とのトラブル(関係悪化)による相談							人
対応方法	コーディネーターの訪問により対応						1	人
	緊急連絡網の協力事業所へ連絡し、事業所の手配を実施							人
	電話連絡等により、本人の安否を確認						2	人
	救急車・警察等との連携を実施し、対応							人
	その他(具体的に) ※緊急による短期入所の利用							人
研修実施報告	開催回数	1回				参加者数合計	29名	
	日時	6月24日	会議名	人材育成研修 (相談業務の基本的対応(2))		参加者数	29名	
	日時		会議名			参加者数		
	日時		会議名			参加者数		
	日時		会議名			参加者数		
各種会議参加	出席回数	17回						
	日時	4月20日	会議名	千葉市地域自立支援協議会若葉区地域部会				
	日時	4月23日	会議名	緑区相談支援意見交換会(Zoom開催)				
	日時	4月30日	会議名	基幹相談支援センター訪問(美浜区)				
	日時	5月24日	会議名	基幹相談支援センター訪問(中央区)				
	日時	5月27日	会議名	千葉市地域自立支援協議会運営事務局会議(書面開催)				
	日時	6月6日	会議名	3拠点事業所意見交換会				
	日時	6月22日	会議名	千葉市地域自立支援協議会若葉区地域部会				
	日時	7月20日	会議名	3拠点事業所意見交換会				
	日時	7月30日	会議名	千葉市地域自立支援協議会運営事務局会議(書面開催)				

大  
績  
報  
告

日時	8月24日	会議名	千葉市地域自立支援協議会若葉区地域部会
日時	9月30日	会議名	千葉市地域自立支援協議会運営事務局会議(Zoom開催)
日時	10月26日	会議名	千葉市地域自立支援協議会若葉区地域部会
日時	11月25日	会議名	千葉市地域自立支援協議会運営事務局会議
日時	12月21日	会議名	千葉市地域自立支援協議会若葉区地域部会
日時	1月20日	会議名	千葉市地域自立支援協議会運営事務局会議(書面開催)
日時	2月22日	会議名	千葉市地域自立支援協議会若葉区地域部会(書面開催)
日時	3月17日	会議名	千葉市地域自立支援協議会運営事務局会議(書面開催)

その他の活動・本事業の効果・コーディネーターの意見等

- ・基幹相談支援センターを訪問し情報交換を行う、登録者を増やしスピードのある対応をするため各基幹相談支援センターとの連携、発信が必要だと感じた。
- ・8月基幹と調整しながら見学、体験等を予定していたが、コロナ禍の中、緊急事態発令、更に延長されたことにより、それを進めることが出来なかった。
- ・単身生活及び在宅生活をされている方へ、計画相談の担当(相談員)の方が、拠点事業や基幹相談の役割などの説明をしていただくことにより、拠点事業の利用につながったのではないかと感じた。

令和3年度地域生活支援拠点事業実績報告書

施設名 鎌取相談支援センター

登録者数	年度末	年度登録抹消		登録抹消者の登録抹消理由				
	13 人	0 人						
	新規登録者数	前年度末						
	5 人	8 人						
登録者数の内訳								
障害の程度	重 度	中 度		軽 度				
身体障害	人	人		人				
障害の程度	重 度	中 度		軽 度				
知的障害	1 人	1 人		1 人				
障害の程度	重 度	中 度		軽 度				
精神障害	人	8 人		1 人				
難病								人
発達障害	(児童)							1人
高次脳機能障害								人
重症心身障害								人
年齢階層別	0~12歳	13~18歳	19~30歳	31~40歳	41~49歳	50~59歳	60歳以上	
	人	1人	4人	3人	3人	2人	人	
生活状況別	アパート・マンション等で単身で生活						1	人
	同居している家族等が高齢または長期にわたる病気						11	人
	グループホーム・生活ホームに入居							人
	親と在宅生活する障害児						1	人
	配偶者と在宅生活する障害者							人
	その他(具体的に)【例:親と同居、兄弟と同居等】							人
登録者への支援方法	方 法		支援実人員			支援延回数		
	電話		11 人			153 回		
	家庭訪問		9 人			26 回		
	職場訪問		人			回		
	来所		7 人			16 回		
	他機関訪問		6 人			11 回		
	その他		6 人			28 回		
コーディネーターの活動状況	区 分		具体的内容					
	各種相談支援		拠点事業登録に至る相談全般・障害や日常生活に関する相談					
	親離れ子離れの必要性の教化							
	対象者に関する緊急連絡先の調整		緊急短期入所受け入れ調整					
	協力事業者による緊急連絡ネットワークの作成		基幹相談支援センターとの情報交換会(2区)					
	対象者の地域における支援ネットワークの構築							
	登録者への見守り支援(訪問・電話連絡)		近況・様子伺い・本人からの電話相談					
その他		体験のための短期入所利用調整						
地域資源の活用	事 例		活用できた資源(成功事例)		活用できなかった資源(失敗事例)			
	警察に保護され、精神科受診も行ったが入院にならず、本人も家で過ごせないと訴えたケース		緊急短期入所を利用し、その後も不定期に体験利用として短期入所を利用するようになった					
	病状の不安定から、入退院を繰り返し、その入院回避のために短期入所の利用を開始したケース				病状なのか家族との関係性からの不安定か判別できない「不調」が繰り返され、利用が中断した。			

緊急時の対応実績報告	対応回数	4回							
	障害の程度	重 度		中 度		軽 度			
	身体障害		人		人		人		
	障害の程度	重 度		中 度		軽 度			
	知的障害		人	2	人		人		
	障害の程度	重 度		中 度		軽 度			
	精神障害		人	2	人		人		
	難病							人	
	発達障害	(児童)						人	
	高次脳機能障害							人	
	重症心身障害							人	
	年齢階層別	0~12歳	13~18歳	19~30歳	31~40歳	41~49歳	50~59歳	60歳以上	
		人	人	1人	人	2人	1人	人	
	生活状況別	アパート・マンション等で単身で生活						1	人
		同居している家族等が高齢または長期にわたる病気						3	人
		グループホーム・生活ホームに入居							人
		親と在宅生活する障害児							人
		配偶者と在宅生活する障害者							人
		その他(具体的に) 【 例:親と同居、兄弟と同居 等 】							人
	発生日由	介護者の不在等による緊急連絡						1	人
本人の急病等による緊急連絡						2	人		
急な予定による緊急のサービス利用							人		
災害等による緊急連絡							人		
その他(具体的に) 【 例:親と同居、兄弟と同居 等 】 ※本人の不安や、家族とのトラブル(関係悪化)による相談						1	人 (家族とトラブル)		
対応方法	コーディネーターの訪問により対応							人	
	緊急連絡網の協力事業所へ連絡し、事業所の手配を実施							人	
	電話連絡等により、本人の安否を確認							人	
	救急車・警察等との連携を実施し、対応							人	
	その他(具体的に) ※緊急による短期入所の利用						4	人	
研修実施報告	開催回数	1回				参加者数合計	29名		
	日時	6月24日	会議名	人材育成研修 (相談業務の基本的対応(2))		参加者数	29名		
	日時		会議名			参加者数			
	日時		会議名			参加者数			
	日時		会議名			参加者数			
各種会議参加実績報告	出席回数	計 24 回							
	日時	5/31, 3/25	会議名	千葉市精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進連携会議					
	日時	6/8, 7/20	会議名	千葉市3拠点連絡会					
	日時	年6回	会議名	千葉市自立支援協議会運営事務局会議					
	日時	月1回	会議名	千葉市自立支援協議会緑区地区部会					
	日時	4/30, 5/24	会議名	基幹相談支援センターとの情報交換会					

その他の活動・本事業の効果・コーディネーターの意見等

市内3分野3拠点での事業を行っていたが、実施法人それぞれで「緊急短期入所」についての対象者の状態像や利用イメージがそれぞれ違って、結果実績にも違いが出た。R2年11月からの事業開始であったが、翌年春には委託のあり方の変更の話が出て、非常に驚き、残念であった。



# 令和3年度 拠点の空床確保事業実績

## (1) 拠点の空床利用状況

拠点施設名	中野学園	若葉泉の里	フジエール
空床確保日数	365	365	365
緊急利用日数	65	0	13
体験利用日数	0	0	79
合計利用日数	65	0	92
稼働率	18%	0%	25%

## (2) 空床利用要請対応状況

拠点施設名	中野学園	若葉泉の里	フジエール
緊急受入要請件数	18	4	9
緊急受入実施件数	6	0	4
体験利用要請件数	3	4	27
体験利用実施件数	0	0	27
その他の支援要請件数	5	3	0
その他の支援実施件数	20	3	5
知的障害	22	3	3
精神障害	0	1	33
身体障害	0	3	0
重複障害	3	0	0
難病	0	3	0
その他	1	1	0

## (3) 緊急受入要請されたが拠点受入に至らなかった主な理由

- ・ 本人、家族が希望する支援等が拠点の支援環境とは合わないため。
- ・ 障害者の障害種別・特性等が拠点の支援環境とは合わないため。
- ・ 拠点等の調整により他事業所への受入となったため。

## (4) 拠点によるその他の支援の内容

- ・ 他の事業所への受入調整
- ・ 緊急時等における行政手続、医療手続等の生活支援
- ・ 支援会議の開催

## (5) 報告結果の考察

- ・ 空床の稼働率は、3施設合計で14%。
- ・ 緊急受入は中野学園による知的障害者への対応が多く、体験利用はフジエールによる精神障害者への対応が多い。
- ・ 身体障害者からの空床受入要請数は全市で3件にとどまっている。
- ・ コロナ禍で、他の利用者への感染防止のための検査の実施など、空床事業運用の負担が大きくなっている。